

# 県教委を動かすために 現場の声が必要!



発行 山口県教職員団体連合会  
 代表者 島村 暢之  
 編集人 田中 元晴  
 山口市大手町教育会館内  
 電話 (083) 922-2049番  
 FAX (083) 921-0907番  
 E-mail: kyoren@orange.ocn.ne.jp  
 ホームページ http://www.kenkyouren.com



## 給与確定交渉に向けて各単組で対話集会開催

県教委を動かすためには、より多くの声が必要で、この対話集会では、11月に行われる県教委との給与確定交渉に向けて、参加される会員の方々から現場の実態や要望等を聞き取り、事務局長専従と会員の方々が直接話をする事で、アンケートの集計結果(左下)からだけでは伝わらない思いを共有することが出来ます。県教連は、対話集会でいただいた現場の声を集約し、それをエビデンスとして、給与確定交渉に臨みます。

### これまでの対話集会での会員の声!

- ・道徳科の実施に向けて年間指導計画や別葉の作成があるので、教科書や評価内容の情報を早く現場に知らせてもらわなければ非常に困る。
- ・小学校での外国語科の本格実施に向け、研修が行われているが、発音指導等に不安をもっている教員が多い。子供たちに質の高い英語力を身につけさせるためにも専科教員の確保をお願いしたい。
- ・全国学力・学習状況調査については、前年度と子供が違いうので単純に平均点を比較するのは適切ではない。県独自に学力定着状況確認問題を小学校3年生から実施しているのだから、そこからの経年変化を見ていくようにするべきではないか。
- ・調査物等の業務は減らないのに、外国語科や道徳科の実施に係る業務等、新しい施策が次々現場に降りてくるので、むしろ業務は増えている。思い切った業務の削減を行うよう求めてほしい。
- ・特別支援学級では、在籍人数が少なくても学年が多岐に亘ると、交流学級への引率が難しく、交流回数に制限される場合がある。このように特別支援学級に籍児童の学習の機会が保障されないことについて、県教委がどのように考えているのか確認してもらいたい。
- ・臨時的任用職員の給与が、年齢的に早い段階で頭打ちになっている。この状況を改善するよう求めてほしい。
- ・統合型校務支援システムは、現場のニーズに合致し、誰もが効果的に利用できるようなものが導入されることを望む。また、導入の際には、システムの利用について助言や指導のできる人材を各市町教委に配置するよう求めてほしい。

今後開催される対話集会においても、多くの会員の方々から現場の声を聞かせていただきたいと思えます。



対話集会 各単組の様子

## 第一回常任委員会開催

10月1日に、山口県教育会館において、第一回常任委員会を開催し、給与確定交渉の重点項目等について検討を行いました。業務改善に関連して、業務内容の削減を現場に任せるのではなく、県教委が行うように求めることを説明しました。併せて、業務時間記録表について、土日の業務時間が正確に記録されない市町や学校があるので、改善を求めることを説明しました。また、育児短時間勤務制度について、学校の規模に関係なく誰もが利用できる環境を早急に整えることが必要であることから、県教委に課題の把握と改善を求めることを確認しました。常任委員の方々は、現場の時間外業務時間を削減するためには、業務時間記録表をもとに、校務分掌の偏りを是正することや業務内容を見直すことが必要であるという意見等が出されました。常任委員会生かしていただきます。対話集会での意見と併せて給与確定交渉に生かしていただきます。



## 現場の声を生かした交渉を!

アンケート項目を、優先度の高いものから得点化して集計した結果、左のグラフのようになりました。昨年度末に県教委から出された業務時間削減に関する通知の影響か、「業務の簡略化」を求める意見が非常に多く、次いで、「教職員の増員」「勤務時間の適正化」「給与関係全般」と続いています。その他にも、アンケート裏面の記述で貴重な現場の声をいただきました。給与確定交渉の中で県教委にしっかりと伝えていきます。今回のアンケート結果を受け、既に対話集会や常任委員会で提示している重点項目に、「免許更新」と「年休取得」に関する項目(グラフの赤棒)を追加し、給与確定交渉に臨みます。

